

芭蕉詩句解

春星

室曆七

中村俊定文庫

文庫 18

365

1

8 9 60 1 2 3 4 5 6 7 8 9 70 1 2 3 4 5 6 7 8 9 80 1 2 3 4

序

誹諧の名は古今少ならず其家といふは我門の  
古人かしく着被しとて先づ句の中は神祕を  
帯ひい俳祖とせは其意をり志うはし先ず  
三浦よりとてむむとむむと何れも言才十子  
その外法玉一語ありし多き故に其意をり  
されし事為し概稱あり門人し其角嵐意は  
とそりと句は深淺厚薄意味深長乃秘妙に於て  
このおろしき志しし説かひしやう也志うはし  
今霜乃句し人志秘奥しゆりちる花実



お村神田曲字眼玄妙乃法かく風流の中紙  
中てく末にたゞし只く其法といへる存神のそく  
そのまらふりかきまらふ類多し〜如今雪中庵  
寒くは先作風史の正統史登光樹々高才して  
別風史付意印を附屬し〜高乃乃存まらり  
波を樹々正風を志しめて芽なり〜早草十と其  
こそをそ乃年月訪ひ其の好士は正法と其  
ふれ時を法と其か法をたつ其は法史その脈を  
り肺の正絶乃何の法と本尙のあふ〜構の  
まか〜ゆ〜く〜凡の果の香を其くも香乃ふ

家の梢乃火と其はまの法なりい〜息はの  
〜其の法也く燃らふて其る其の法も〜  
富士宮其といへる其の法も〜其の法も〜  
おまいり〜又吉寺の宮寺の法も〜其の法も〜  
む〜い〜其の法も〜其の法も〜其の法も〜  
かの其の法も〜其の法も〜其の法も〜  
かく中〜想像〜又古城岩の形ゆり〜田畑乃  
中に古墓者む〜其の法も〜其の法も〜  
惟〜其の法も〜其の法も〜其の法も〜  
あ〜其の法も〜其の法も〜其の法も〜

翁乃生涯い西行宗派の跡をたゞひ喜は系  
さらくは嘆みかねふに夷性も花も臆よらち  
まほひまらみ人の何れもやま記く時をい  
時々の親戚は志りし秋の月れおくはまはま  
わく人を休む難ういろくは船の形しは浦や  
鶺鴒らけ文書はゆりたらん時をく末世のふ  
い乃も記し縁をえくまこと自在に一えめ今  
うつものくたふもむし成志のくかこり  
氏家のくまの事書はさひねらその御は入と  
下しこれ縁のわいもくあ乃らんういをば

事として書何月ありて藤原しちんちり  
あふくやまら一白うたはりらのく書  
ういよれまもやおかく又のちの世乃好士  
ままけいもけんしせはにうらうかこく  
とていんせのくまかきはあゆ

音曆七のく新月

楚水



芭蕉翁句解



高橋為茂著述

世句

芭蕉翁の句に けまといせむる人馬任く便

愚法和の手に けまといせむる人馬任く便

うらやまの梅子の世縁よりけりけし又文字の常世  
人と元日と意を以て芭蕉翁の形容をけりけり芭蕉翁の

風雲うらやまの梅子の世縁よりけりけし又文字の常世

母の世縁よりけりけし又文字の常世

あまの世縁よりけりけし又文字の常世  
一字減りけりけし又文字の常世  
世縁よりけりけし又文字の常世

此司身名の評の

奉くや橋一と女と橋の面

おもしろに六意一孫橋のつらも色なるは只人の心は彼に  
うつりもよきと生死を常乃の理をよきとすは橋に  
まれば色を色とすはむとむしあふふはこころを  
祝想をり慈恵と師七橋の和歌

身名

の

評

はくくは世の中と男よと女は世の中はくくは  
はくくは世の中と男よと女は世の中はくくは  
はくくは世の中と男よと女は世の中はくくは

此白上と

此翁のあまの

大治長宗よ松とてをりて久光氏成は又中ねんあ

すのけを中もかきこはるをそとと実なるかかりを  
心はあふとて出たりも人の心をきこふるは  
思ふべきは心もみみの様よりもおとすは橋の面

或人云芭蕉翁生辰 後光明院乃御宇正保元年甲申  
俗く世分わりとけは理をりてあかき又許さ風俗  
文選直指のつら祖海曰予々南岳と橋の面は結しと  
の面ありは後世り色なるは色なるは色なるは

衣冠優施の姿よ思ひ合ふ新の或書に何者此  
初と秋風吹しに春あはる仲はあつ浪俊成卿おの御子  
稱一河ふの詞よ思ひ八旬有余れむ毎自髪あつ御忠  
帽子紫檀の貴しうに布皮を松下の藪子あつ嘯さ  
きあつて和琴比かきあせるに松風あつく言伝  
かゝる夕言とらんら地まと下略只くちあつたのよ  
かゝるあつたり

此句也  
誰人々 菰あつく 在ん花のをふ

孫農字元公家 貧織席シヤ為業明詩書為京兆

功曹ト冬月無被有藁一束暮卧朝收

此句句句味もあつ  
六也者也  
い今や 新年 瓢あつ味

海門芭蕉居し米あつ味んらりり 瓢あつ味をむ  
もつ海門人等又乞よとるら 言治宗ト稱と稱と  
瓢銘山素堂 一瓢重黛山自笑 稱箕山莫慣  
首陽餓 這中飯 顛山

此句句句味もあつ  
毛の印も川帆と稱さ 我世も那

是よ海瓢の文あり略く今在武河某の家の子

我あり又或集りー ありーや新まゆりよ  
お妹 年をいれやれ年かく一も昔昔とむせり白雲  
ふりあり

子良館の後子柳ありしこと

湧子良子ありしこと 柳の昔

此句は紙の上書  
下米あり

ありし子と信言ありしこと 子良子あり  
を神宮の神饌と奉仕すは少女ありきと  
布しありし子良乃館よりふりて神前  
柳希ありしこと今ありしこと

此句は紙の上書  
下米あり

お先君は南より子十宿のまゆりけ

書あり

此一事はし州大津より東の儀あり柳若葉は  
青白乃色をとりて風の流はりてしるを  
こりてー又あけとるふの魂して駕昇も女の  
後もすにんごもー此覇後乃一棒やんごー  
けりて候也

此句は紙の上書  
下米あり

柳道おのるよ 柳をあらねる書りてしる書りてしる



と海幸一若葉つむく青つらに霞ありこるやと  
免と菟菟の立入りとてあはれて若葉摘むと  
やうさわい菟菟乃初春のふらふらうか押合ふ  
ふらふら初春の粉骨称ふらうか  
此句述  
吉来若例多末常人以端一眠うは嬌也あふ  
評しうと嬌  
白日に他考皆妙味の夏と云いあふは嬌也  
ふらふら故事一とあふははらうか  
庄子齊物論曰昔者莊周夢為胡蝶相然胡蝶也  
了然とをらうか  
白日に他考皆妙味の夏と云いあふは嬌也  
ふらふら故事一とあふははらうか

此句七抵

莊子なり

これらあり柳はさる志あり

つら柳はら  
つら柳はら  
つら柳はら

け句評六つ字陀法作とこれありさう柳のさる日  
とあふははらうかの短冊と正のやうに集におせるふら  
柳のさる志ありははらうかと記を柳とあふはら柳  
といふ初のあふはら柳乃さるら例は若葉の粉骨と  
あふはらつら法玉連環体受して詩音連環しりふは  
あふはらあふはら東坡喜禪集寄同静思伊人隔  
帰朝憶別離時聞漏轉これ連環のつらふはら

東坡喜禪集寄同静思伊人隔  
帰朝憶別離時聞漏轉これ連環のつらふはら

此

大日枝や——と引推——一處

一休福原殿山より好いたまひし時流徒等六字紙  
原こころ福原坂本此里しけと紙と紙せし一の  
字と引推するひしと

此句は勿白

二月七日神楽山をわきと

此句は心のか

禰ははま——名文名は阿——か

此句は坂と

此句は坂と、此句は坂の信と進むの万詞をけし上人及らの  
思ひ深く伊勢を神文よ事行わりと名刺と珍もの

つらと

亦理をふりたまひ小神衣等乞合し、上院をそそ禰  
よそ中向くまひらと撰集抄に記されし只珍もの  
名刺ありとやまし三月の嵐し、其位とさるる世の  
海志又さる

二月堂より頼りと

此句は

あふや——乃信の皆のあや

本の下

けいねるし書と空の物、今ら集り、二月をん  
あふと、しつ詞ちよあふん、けいねは二月の、しつ  
あふけ、日堂、最の石井よ、若狭、玉造、敷大明神、ち、報世

音人跡をのたす水酒ある別眼を以て靈筆に示す  
をば二月を此水にといふ

高野

又母乃志きりに恋し雛子の夢

良糸信那の歌よ 何ろくとも山田の雛子志き  
又も何ん母もあはれを此御よはれ

俾呂丸

註也 孟母 孟母の事有也 母の事有也 母の事有也  
維多母事と母事と 母の事有也 母の事有也  
途中 母の事有也 母の事有也

せんしならん 母の事有也 母の事有也

文身なる 呂丸の出母 母の事有也 母の事有也

考の考と 武川の河川 母の事有也 母の事有也

注 夜文 唐の孟母 母の事有也 母の事有也

入客衣 蘇非 孟母 母の事有也 母の事有也

摘との事 又楚辞九歌 母の事有也 母の事有也

月解上

(三)

湘江 湖南 雁胡 雁胡

此句申身古紙

老傭

蛸よりいへ海を渡る老傭もせき

山家集の雑の部一申にきりたる物を高ひりて  
何れも同くは蛤を干てゆりありてアツラひき  
おろしくは蛸ともきり多干もきり蛤よりいへるも  
便りりけししは蛸も青紙の筆もねむしき  
筆のきりかきしは蛸も海を渡るも又此句の  
ては二段もあつて蛸も海を渡る法の則も  
きりり

古紙開くたるま

葛城山の麓をさる

ねんきりきりしは蛸の歌

葛城の麓をさる他へいりてきりきりしは  
蛸もいりて葛城の麓をさる目へいりて世の人のきり  
かくきりていりていりていりていりていりていりて  
いりていりていりていりていりていりていりて

向榮院もねりまにりり馬子歌

ねんきりきりしは蛸の歌

此等の詞を摘ぐの堂院の傍にありはれは、おしは、終に  
花よもくく日本の威風も口中にありたる

詞うた

傍かたわら

ちる花やもも踏く琴の塵

先ハ樂意ハ画賛あり劉向別録曰 晋有善歌者塵  
公發聲清哀拂動梁上塵このふは色もこのかの梁上  
塵をあらむをさるるに流のよるむお能と称す

支考、法皇へりては

理窟法りくつほ

兼山かねやまと皇女みまゆり

まはらまはら

けくは推せよ花よりお能一具

春のや夏夕まよ秋早世の中うけて我も食せし  
と師の教ひうして以院を食れ給ひよ、楽戒の二句と  
るる

おしは

おしはくもその名命

世よ

歌よ乃いよまもに佛をかりこせしんは  
佛しんしんい寺は瓦葺ものありし事あり  
この句はあはれもよるるを所は一二  
花よをさるるを

布袋の賛

このほーや袋つらひ月と紙

光原江の歌

二極遊

三多身朱

鳥丸光原江 芳葉集 拾月布袋此讚よ 六重と  
さーたる指の先ささく月高夜も秋乃おぼふ白雲と  
いそよかきいて 空は雲の深味ふは 謝ふ多哉  
かちゆあや 安胡の原れ 為らぬら

安胡の原地をささく 誰士多ー 葉詠い 葉多し 何葉  
胡あーい わさく 只んささく ぬる 喜地 的眼 前 神あり

湖水

り 喜地 池のくーがーみ 紙

り 紙 ぶ じ

ねん山寺の奥の住居、ませの山とて門人をもと  
情の湖水の眺望や世を情とてりふおせら 葉あり  
一句の情もいふはねい せん いるる 道にのけね  
何とー 師さるる ちん ちん  
佳句ともし 妙の ちん ちん 下 句 昔ー ちん ちん ちん  
世く 喜ー 一 和方 浦と 返り あり、

芭蕉し 得  
あはれ

ねん山寺の奥の住居、ませの山とて門人をもと  
情の湖水の眺望や世を情とてりふおせら 葉あり

句解上

十

この歌を情し〜海と初音の浦と山色遠含空  
海明先見月瞻望〜とむは清の瑞籬清くまを  
情む〜この地ありたわ〜  
高みからうま  
か〜  
の芳美からうま

いせも

世句を極下  
注は枕是と〜

神垣やあひも〜けそは繁縁

今葉集 神垣の向うと〜  
しけの垣乃ま〜  
迅速の句情係〜

世句善之を〜  
意閑之を〜  
世〜  
世〜  
世〜

袖日記よ〜  
末傳ら〜  
氣色〜  
梅と〜  
う〜

世句〜  
世句〜

注は〜  
世〜  
世〜

郭云〜

海より舟をりてのちいしきしつ後より舟をりて  
みんの二室の日月の影にわしきるなり金帳のあは  
のりりききるなり一乃因法師の語をみんのかつ  
ぬいゆきしに詠一いつききり

此句句句一注也 奥州武隈村にて

梅より ねと 二も 氏 二月 紙

奥州のと梅より 元禄二冬一舟生未七日武隈にて  
まきく 衆月より一武隈より 梅より 二月  
紙一とのりねとまきく 友季はあふ一あ長連一親忠

紙毫よりよりいふに 武隈のねと 二もを紙へ  
いふや 同いふいふ 音也

此句句句

あふ一や 事候の物よ かつ

事候のまといつ一のまといつ一ねねといつ一時名  
紙をてきき一いふあふく 洞一より 葉子く 上 賜  
きき一あふのよや 枕草紙より一いふいふのよと人の  
りて 舟よりいふまといつ一いふいふのよと人の  
これとせせり一いふいふいふいふいふいふいふ  
皆人ら 舟をりて 一日し 紙をてききとあふいふ



とくゆせたりあり

許六の本意路の遠き

旅人乃そあふしは推の花

万葉集に 家にあはせけりしをそ花路に

推のまより馬草と陰のせり挽麻ふ

風雅の細とたとひ人と称するなり

竹磔日

うらまへし竹枝の日長と

此句何れなるか  
注述  
下の句を雨月からかへる

五雑俎曰 栽竹無時雨過便移須留宿

土記取南枝此妙訣也 俗説五月十日と竹磔

日と云ふは俗説を信じて五月十日とす

居家必用 五月十日栽竹及十三日為竹本

余日栽之百無一死 頻試實効 竹入るる

其の如合と云ふとむ風俗なり

古き世説志のいへ

おのちけりし竹のたけり

此の句は

けりし竹のたけりし竹のたけり

向解



世乃くあまのつらぬし赤子の口くひりてゆづり  
 けり多しあまのつらぬし赤子の口くひりてゆづり  
 世乃くあまのつらぬし赤子の口くひりてゆづり  
 今にわが世のつらぬし赤子の口くひりてゆづり  
 中ともしあまのつらぬし赤子の口くひりてゆづり  
 常は保集所のつらぬし赤子の口くひりてゆづり  
 是等のつらぬし赤子の口くひりてゆづり

此句より

芦野より

此句より

田一敷りくをあらはる柳子  
 此句より

若柳六下野かあり 乃のふは清水海へ柳け  
 ちりてあまのつらぬし赤子の口くひりてゆづり  
 今にわが世のつらぬし赤子の口くひりてゆづり  
 中ともしあまのつらぬし赤子の口くひりてゆづり  
 常は保集所のつらぬし赤子の口くひりてゆづり  
 是等のつらぬし赤子の口くひりてゆづり

此句より

此句より

此句より  
 此句より  
 此句より

第...の...  
先...の...  
...  
...  
...

世...  
...

...

...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...

山崎宗信

...

...  
...  
...  
...

句解上

(六)

ひきしりてつらと 宗徳の宗徳をわも 徳光つらと  
奥一とつらと 喜むとまわと 宗徳は水宗徳有  
かき宗徳は宗徳の 又宗徳の宗徳と宗徳の  
とん宗徳つらとつらと 宗徳の宗徳の宗徳の  
目宗徳つらとつらと 宗徳の宗徳の宗徳の  
この宗徳つらとつらと 宗徳の宗徳の宗徳の  
宗徳の宗徳の宗徳の 宗徳の宗徳の宗徳の

此句其のつらとつらと 宗徳の宗徳の宗徳の  
宗徳の宗徳の宗徳の 宗徳の宗徳の宗徳の

奥細くつらとつらと 宗徳の宗徳の宗徳の  
宗徳の宗徳の宗徳の 宗徳の宗徳の宗徳の  
宗徳の宗徳の宗徳の 宗徳の宗徳の宗徳の  
宗徳の宗徳の宗徳の 宗徳の宗徳の宗徳の  
宗徳の宗徳の宗徳の 宗徳の宗徳の宗徳の

日早二

寶曆九巳巳 六月吉日

京寺町二条上町

井筒屋庄兵衛

江戸通油町

須原屋太兵衛

大傳馬所二丁目

大和田安兵衛

